

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	児童生徒一人一人が大切にされ、将来の希望が見いだせる学校づくり ○ 一人一人の教育的ニーズに応える学校 ○ 児童生徒の人権が尊重された安全で安心な学校 ○ 保護者や地域社会に信頼される学校			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	B	
(成果) ・授業改善会議等を通じた定期的な授業の見直し ・組織的な生徒指導体制の整備 ・進路指導における講師招聘研修等と専任教員の充実 (課題) ・年間指導計画等に活用した系統性のある指導の充実 ・授業におけるICT活用の推進 ・安全・安心な教育環境の更なる整備	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の実践 安全・安心な教育環境の整備 保護者、地域、関係機関等との連携	①PDCAサイクルに基づいた、個に応じた教育課程の充実 ②顕微鏡福岡メソッドに基づいた目標設定や支援の実践 ③ICT機器の効果的な活用や校内研究、授業実践力の向上 ④キャリア教育、道徳教育、食に関する指導、性に関する指導の充実 ①いじめや不登校等の未然防止 ②児童生徒一人一人に寄り添った丁寧な指導の実践 ③ケース会議等による児童生徒の課題に関する情報共有や、関係機関と連携した対応 ④緊急時シミュレーションや避難訓練の効果的な実施 ①保護者との相互理解の深化 ②PTA活動の活性化、保護者との連携、教育力の向上 ③交流及び共同学習の計画的な推進 ④ホームページ等の広報活動の充実 ⑤地域の学校や教育関係者への相談支援の充実 ⑥地域の適正な就学支援体制づくりのための田川地区教育委員会等との連携強化		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学習指導	(小) 系統的な年間指導計画と単元題材別指導計画を作成する	音楽・図画工作・体育の学びを整理し、年間指導計画を見直す。 学期ごとの授業改善会議で単元題材別指導計画を活用し、授業の見直しを図る。	A A	・学期ごとの改善会議で授業を見直すことができた。授業前に目標や支援を共通理解できるような単元題材別指導計画の活用方法を検討する。 ・学部会や朝の打ち合わせを活用した情報の共有は継続し、学部というテーマで児童を指導するという視点での取組に努める。 ・年間指導計画や単元題材別指導計画を必要に応じ見直すことで授業の質の向上に努める。 ・単元や本時のねらいについて教師間で共有し、生徒個々の目標を踏まえ、個に応じた支援及び手立てを講じ、適正な評価につなげる。 ・情報を学部会等で共有し、一貫した指導体制を整えることができた。次年度以降は、将来を見据えた視点を変えて保護者や関係機関と協働していく。
	(小) 児童一人一人に寄り添った丁寧な指導の充実を図る。	学部会や朝の打ち合わせ時間を利用して、指導上の配慮点や指導方針について共通理解を図る。 児童の人権が尊重されるような適切な言葉掛けや接し方を目指す。	A B	
	(中) 年間及び単元指導計画を作成し、授業実践に生かす。	目標、内容を整理した年間及び単元指導計画を作成することで授業実践力を高める。 作業学習等の年間及び単元指導計画作成にあたり、3年間を見通した学習計画を立てる。	B B	
	(中) 関係機関等と連携し、障がいの状態等の変化を把握する。	家庭環境を把握し、本人や家族への必要な支援について学部で検討し共通理解を図る。 必要に応じケース会議等を実施し、個々の障がいや心情に寄り添った適切な支援に努める。	A A	
教務	系統的な年間指導計画と単元題材別指導計画を作成する	音楽等の学びを整理し、小・中学校共通の様式で年間指導計画を作成する。 生活単元学習の単元題材別指導計画で、各教科の目標を明確にできるような様式を検討する。	B B	・学習内容に偏りがないように、各教科等の領域を網羅した年間指導計画に修正する。 ・個別の指導計画などの作成において、学習指導要領に定める目標に準拠して適切に評価できるように、新任任教員(希望者)研修や職員研修として研修を計画的に行う。また、演習タイプの研修形態も取り入れる。
	諸機簿等の運用、作成に関する確認事項を周知する。	個別の指導計画等の作成方法、原本の取扱いを周知する。 統合型校務支援システムでの作成等について計画的に全体周知し、諸問題に即時に対応する。	B B	
情報	授業におけるICT活用情報を整備する	ICT活用の基本情報について教員全員に資料集を配布し、随時資料を追加する。 学校研究におけるICTグループと連携をとり、授業活用情報を提供する。	B A	・情報セキュリティ要項について、今年度変更、追加した内容について、修正を加えて、データを更新し、周知する。 ・ICT活用の情報蓄積の部分を、校内研究のICT活用グループで担い、研修課と連携して進めた。今後、研究をまともな情報提供を必要とする。 ・写真データのサイズについて、周知徹底を図るようにする。
	校務におけるICT活用情報の提供をする	ICT活用の情報集「ICT早わかり」や「情報セキュリティ要項」の内容を紹介する。 校内のサーバーやクラウドの使い方について、研修会やホームページお知らせ等で周知を図る。	B B	
児童生徒	児童生徒の実態把握を行い、問題行動に対して、未然防止に努める。	他校の取組なども参考にしながらより良い指導支援が行えるよう計画・実行する。 児童生徒及び保護者へアンケートを実施し、問題行動やいじめの早期発露に努める。	B A	・問題行動を未然に防ぐために、いじめ等に関する研修会を年度初めに実施したり、迅速に対応ができるよう指導体制を整えたいとする。 ・全校集会数を減らしたことで、クラスでの特活は充実したが、全校生徒の前で発表をするなどの経験が不足したため時期を見直し。 ・危機管理マニュアルに基づいた教育活動の充実を図るため、年度始めに研修を行い、危機管理マニュアルと各種訓練の行動様式の適合性を図る。
	児童生徒間の良好な関係を築くような活動を行う。	集会等の活動を積極的にを行い、児童生徒がより多くのことに関わる機会を設定しながら人権意識を養う。 児童生徒同士が学部を越えて自由に意見を出し合える活動を実施する。	B B	
保健	緊急時対応を具体化し、事前事後の危機管理意識の向上を図る	様々な学校事故を想定した緊急時シミュレーションを実施し、課題や改善点を共有する。 児童生徒の目標に立った安全点検やヒヤリハット事例の集約を行い、危険箇所迅速に対応する。	A A	・校外多歩行やグループ学習等での緊急時対応について、教員の体制や役割を整理する。 ・今年度作成した性に関する指導の年間計画を活用することができるよう、各学部との連携を図り、実施状況の確認、共有方法を見直しする。 ・児童生徒の個別の性に関する課題に関して、積み残しがないよう実態把握・評価できるような仕組みを提示する。
	児童生徒の現状を踏まえた性に関する指導の充実を図る	実施した性に関する指導の内容について共有し、児童生徒の実態に即した系統的な年間計画を作成する。 包括的セキュリティ教育の考え方を大切にした、幅広い性教育の授業を実施する。	B A	
	実習に係る業務を円滑に進めるとともに、実習の学習効果を高める	各担任が見通しがもてるよう、現場実習や校内実習に係る業務を明確にしたスケジュールを作成し、提示する。 掲示板に実習の内容や活動の様子を掲示したり、報告会を行ったりして、児童生徒・保護者の進路意欲の向上に努める。	A B	
進路指導	進路情報の提供を行うとともに進学等に関する職員研修や事業所見学の充実を図る	進路だより、ホームページ等を通して、進路に関する情報提供を行う。 就労継続支援事業所の種類や特徴についての職員研修を実施する。	B A	・スケジュールについては、進捗状況や実施に応じて適宜見直しを行い柔軟に対応していく。指示については、指示時期や場所を見直し、より多くの児童生徒・保護者の目に触れるように工夫していく。 ・進路情報の提供については、必要な方法を確保し伝えるため、発信方法の検討が重要である。対象者別に合わせた情報発信の在り方を見直していく必要がある。 ・就労支援の制度や周辺事業所の状況も変化しており、最新の情報や共通理解を継続させるためにも、今後も継続して職員研修を行っていく。
	学校行事への意義やねらいに対する理解を深める	保護者と教職員が連携をとり、学校行事を通して、協働する活動を行う。 PTA行事や学校行事後保護者、教職員にアンケートを実施し意見を反映する。	B B	
庶務	卒業生の生活を知ることや将来の自分の生き方を肯定的に考えられる力を高める	20歳を祝う意味を知る授業を通して、自分の将来を考える機会を設ける。 卒業生の近況の把握の為、必要に応じて関係機関との連携を図る。	A B	・PTA協働することで参加者を増やし、保護者が子どもたちの将来について考える機会を提供していく。 ・アンケート結果をPTA便りで掲載することや、アンケートを電子化へ移行することを検討していく。 ・卒業生の高校卒業後の生活を知ること、生徒達が将来を考える一つの機会となるように、積極的に関係機関との連携を図る。 ・新任任教員研修や職員研修を、職員のニーズに応える形で実施するために実施期間を見直すとともに、アンケート内の少数派の意見をどう反映していくかを検討していく。 ・校外研修の資料や療育支援事業で受けた指導・助言を職員全体で共有できていなかった。改めて話すのか、ホームページに掲載するのかなど、共有する方法も検討が必要である。あるいは、夏期研修期間で、OTやSTを招聘し、全体研修にすることなども検討したい。 ・学校研究を含む研修に充てる時間を確保するため、業務の精査や研究内容の精選は必要不可欠であると考える。
	職員研修や療育支援事業を充実させることで、教職員の専門性や指導力の向上を図る	事前アンケートで職員の困り感を把握し、ニーズに応じた研修を行うとともに、県内外で実施された研修のシナジーや受講資料を共有する。 療育を必要とする全ての児童生徒に指導が行き渡るようスケジュールを調整し、専門家による指導・助言を一貫して回覧することで、全員が共有できるようにする。	B B	
研修	校内研究の計画的な実施と、研究のまとめの作業を体制を整える	研究推進委員会や研究に関するこの年間計画を作成し、全職員が学校研究に対して共通の意識をもてるようにする。 学校研究のテーマに基づいた指導の共通理解を図るため、課題設定や授業実践について、学部やグループ内での意見交流の機会を設ける。	B B	・新任教員研修や職員研修を、職員のニーズに応える形で実施するために実施期間を見直すとともに、アンケート内の少数派の意見をどう反映していくかを検討していく。 ・校外研修の資料や療育支援事業で受けた指導・助言を職員全体で共有できていなかった。改めて話すのか、ホームページに掲載するのかなど、共有する方法も検討が必要である。あるいは、夏期研修期間で、OTやSTを招聘し、全体研修にすることなども検討したい。 ・学校研究を含む研修に充てる時間を確保するため、業務の精査や研究内容の精選は必要不可欠であると考える。
	特別支援教育推進ネットワークを活用し、専門性に応じた支援の充実を図る	アンケート等を通して、校内のニーズや困り感をまとめる。 必要に応じて視覚や聴覚、肢体不自由部門と連携して児童生徒の指導・支援の充実を図る。	B A	
支援	センター的役割として、地域の教育相談を実施する	相談内容に応じて、事前に参考資料を準備し本校職員から助言をいたしたいりする。 教育相談実施にはその後の実態や現状等を相手校と電話で共有するとともに、相談内容や助言内容について部内で共有する時間を設ける。	A B	・年間を通して校内の困り感やニーズを集約できるような体制を整え、必要に応じて視覚や聴覚、肢体不自由部門の先生に相談していただき指導・助言をいただく。 ・教育相談については、事前調査シートを早めに提出してもらえようように教育事務所や相談校にお願いし、より適切な指導・助言を行えるよう担当者や部内での協議を積極的に行う。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
B	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・運動会では、児童生徒一人一人が種目に挑戦してやり遂げる姿を参観することができた。先生方は、手厚い支援を行いつつも、子どもたちに自分の力でやり遂げさせようとする姿勢が感じられた。 ・交流相手校として、交流及び共同学習について、さらに充実させていきたい。
B	・年間指導計画や単元題材別指導計画の見直し、職員研修をさらに進め、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させてほしい。
B	・教職員の研修をさらに充実させ、ICTの活用を推進してほしい。
B	・災害時における実践的な訓練を継続してほしい。 ・人権が尊重された指導・支援を充実させてほしい。
A	・緊急時対応については、次年度の課題にある「教員間の役割整理」をさらに進め、誰もが動ける体制づくりを期待する。
B	・今後も児童生徒や保護者への情報提供、教職員間の共通理解を行い、適切な進路指導に努めていただきたい。
B	・アンケートの電子化など、保護者が意見を出しやすい環境づくりをさらに進めてほしい。
B	・今後も、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させるため、教職員の専門性と指導力を向上させる研修内容・方法の改善を図っていただくことを期待する。
B	・本校(小学校)特別支援学級に在籍する児童への指導方法について、巡回相談でアドバイスをいただいた。今後は、より多くのアドバイスをいただき、本校の特別支援教育を充実させたい。
評価項目以外のものに関する意見	
いろいろな授業や行事において、丁寧な指導が行われていた。今後も引き続き一人一人に寄り添った指導を行ってほしい。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・授業におけるICT機器の効果的な活用
- ・人権が尊重される教育・環境づくりの実践
- ・安全・安心な教育環境の更なる整備